



實用新案登録願

A

(1,500円)

昭和47年6月12日

特許庁長官 井土武久 殿

ガコフセツコハ

1. 考案の名称 アングル型骨接合板

2. 考案者 アヤワタ ホシコ

住所 東京都文京区本駒込6丁目7番5号

氏名 イ トウ タダ アツ 伊藤忠厚 0501

3. 實用新案登録出願人 アヤワタ ホシコ

住所 東京都文京区本郷3丁目29番10号

氏名 アヤワタ ホシコ 有限会社 瑞穂医科工業株式会社

(代表取締役) 榎本正男

4. 代理人 千

住所 東京都文京区本郷4丁目9番32号

氏名 (5911) 弁理士 千ヶ崎 宣男

5. 添付書類の目録

| | |
|----------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通 |

49-28687-01

明 細 書

1. 考案の名称 アングル型骨接合板

2. 実用新案登録請求の範囲

骨接合板にアングル型の折曲げ側縁を設けた
骨接合板

3. 考案の詳細な説明

骨折を接合する骨接合板は従来、平板状または彎曲状であつて、この接合板を骨折部を股いで骨に当て、骨接合板上より螺子で骨に締付固定している。

しかし、この種の接合板では、骨接部に外力が加わった場合、骨接部に横ズレまたは回旋が生じ易く、骨接合の快復に悪影響を及ぼすおそれがある。

本考案はこのような欠点を解消するため、骨接合板の側縁に、アングル状の折曲げ刃を形成して、この折曲げ刃部を、骨折部の接合骨の双方に埋設させ、接合板は従来のもと同様にその上面から螺子で、骨接部の双方の骨に締付固定するようになしたものである。

49-28687-02

本考案を図面により説明すれば、第1図は本考案による骨接合板の平面図、第2図は第1図のA—A断面図、第3図A、Bは第2図のB—B断面図を示すもので、A図は骨接合板の上面が彎曲したものの、B図は上面が平面のものである。第4図は本考案による接合板を骨折部に固定した状態を示す斜視図である。

図中1は骨接合板2に穿設した骨接合螺子の挿入穴、3は骨接合板の側縁をアングル状に折曲げた刃部である。

本考案の骨接合板は従来の骨接合板と使用目的は同じであるが、骨折部の骨4、5に電動カッター等で、第4図に示す如く縦方向の溝6を設け、この溝の中に接合板の折曲げ側縁の刃部3を押込み、双方の骨4、5を接合させた後、接合板2の上部より螺子7を双方の骨4、5にねじ込み、接合板を双方の骨に締付固定するものである。

以上のように、アングル状に折曲げた接合板の側縁刃部を骨折部の双方の骨内に埋設した後

に、接合板を上部から双方の骨に螺子で締付固定すると、双方の骨が外部からの衝撃等によって横方向にズレようとしても、又回転しようとしても、この埋設した側縁によって、これらの作用は阻止されるので、接合板を当てた後において、骨接部の骨接合面がズレたり、又離れるようなことがなく、従って骨の接着快復上、好結果をもたらすものである。更に又本考案の接合板はアングル形状になっているため、従来の平板の接合板と比し機械的強度が大で、それだけ軽量のものを使用できる等実用上の効果大なるものである。

4 図面の簡単な説明

第1図は本考案による骨接合板の平面図、第2図は第1図のA—A断面図、第3図A、Bは第2図のB—B断面図で、A図は接合板の上面彎曲のもの、B図は上面が平面のものを示す、第4図は本考案による骨接合板を骨折部に固定した状態の斜視図を示すものである。

2……骨接合板 3……アングル状に折曲げた側縁刃部

3

49-28687-04

4、5……骨折部の骨 6……縦方向の溝 7……骨接合
合線子

実用新案登録出願人 瑞穂医科工業株式会社

代理人 弁理士 千ヶ崎 直 秀

49-23687-05

图1

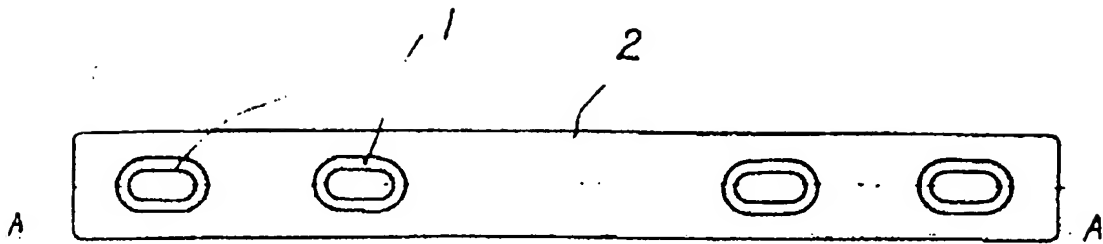


图2

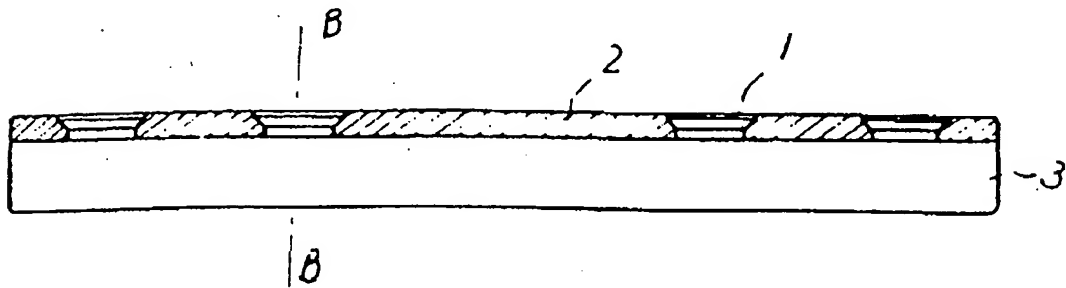


图3

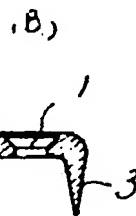
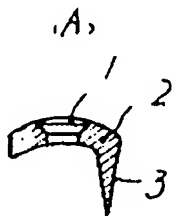
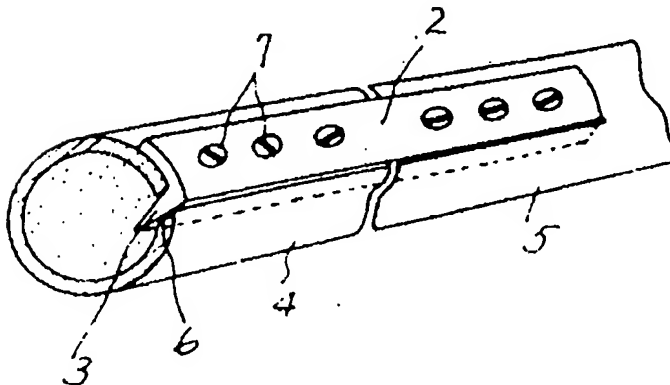


图4



实用新案查录主编 瑞德民 编
 代理人 亦理士 千一 65 走男
 49-28687-06

28687